

## 繁栄する西アジア・中東の都市

### 今回学ぶこと

ユーラシア大陸の東西とアフリカ大陸を結びつける位置にある西アジア・中東地域では、古くから交易が盛んで、多くの都市が発展した。その中で、アイユーブ朝のサラディンが都としたエジプトのカイロ、オスマン帝国の都のイスタンブル、そして、サファヴィー朝の都となったイランのイスファハーンを取り上げ、それぞれの都市の繁栄の様子と理由を学ぶ。

### 調べておこう・覚えておこう

西アジアの都市やこの地域で興亡した王朝は、皆さんにあまりなじみがないかもしれない。次のことを、番組を見る前に確認しておこう。

- カイロの位置とサラディンの生涯
- 十字軍について（第13回参照）
- イスタンブルの位置と16世紀までのオスマン帝国の発展
- イスファハーンの位置とサファヴィー朝史の展開

### カイロ ～十字軍とサラディン～

カイロの繁栄の理由は、サラディンが、新しく打ち立てたアイユーブ朝の都をこの町に置いたため、軍人や手工業者、小売商が多く集まったこと、インド洋交易によって東方のさまざまな香料が持ち込まれ、その取り引きを行う貿易商人がこの町を地中海交易の拠点としたことによる。貿易商人は、宗教的には、ユダヤ系、ムスリム、ギリシア正教、カトリックなどさまざまだった。

サラディンは、十字軍と戦い、エルサレムを十字軍から奪還したことで有名だ。彼の指揮下で活躍したのが、マムルークと呼ばれる奴隷軍人だ。ロシア草原やコーカサスで購入され、君主のために働くように訓練された奴隷の若者が、マムルークと呼ばれた。彼らマムルークは、その強力な軍事力によってアイユーブ朝を廃し、自分たちの政権を作った。カイロはマムルークの政権のもとでも経済的に繁栄を続けた。

**イスタンブル ～オスマン帝国と東西交易～**

イスタンブルの繁栄の理由としては、政治的な安定に加えて、ビザンツ帝国からこの町を奪ったオスマン帝国の君主たちが、宗教的に寛容な政策を取り、ムスリムに加えてギリシア正教徒、カトリック教徒、ユダヤ教徒などが自由に交易に携わることができるように配慮したことが大きい。

町にはいくつものバザール（市場）や倉庫が作られ、オスマン帝国の内外から多くの商人がこの町を訪れ、貴金属から日常の食料や衣料に至るまでさまざまな品物を取り引きした。16世紀の段階では、町の人口の半分は、ギリシア正教徒だと言われている。当時の西ヨーロッパ諸国からはそう見えたのだろうが、オスマン帝国がムスリムだけの帝国だったのではないことに注意してほしい。

**イスファハーン ～サファヴィー朝とアッバース1世～**

イスファハーンが「世界の半分」と呼ばれるほどに繁栄した理由の1つは、これまでの2つの例と同じく、強力な王朝の都がここに置かれたことによる。強い政治権力は求心力を持ち、多くの人々がそこに集まるからである。また、領内各地からこの町に集められた優秀な職人が、絨毯や織物、各種金属製品などの質の高い手工芸品を作りだしたため、これらを求めて多くの商人たちが集まった。さらに、この町に集まる富に目を付けたインド系やユダヤ系の金融業者も事務所を持って活発な取り引きを行った。

この町でも、王朝のひご下で、宗教や民族に関係なく、多くの人々が自由な商取引を行うことができたことに注目しよう。政治が安定し、誰もが生産や取り引きに参加できたので、人が多く集まり都市が栄えた。これが3つの都市に共通する繁栄の秘密だった。

